



側溝にたまった汚染土壌を洗浄した新システムの実証実験

兵庫県の淡路島で最大震度6弱を観測した地震は13日で発生から1年。阪神大震災を経験し、将来予想される南海トラフ巨大地震でも大きな津波が想定される島南端の南あわじ市福良地

果を実用に反映させる。

システムは、汚染土壌が集積しやすい側溝や農業用水路などの除染で、作業員が汚染土壌に直接触れずに安全で迅速に土壌を回収できる。開発には、民間企業などで行く「福島未来国際プロジェクト」が参加している。実証実験は同村と結ぶ支援協定に基づき行われ、関係者が同村の小学校通学路の側溝にたまった汚染土壌を専用機械で洗浄するなど一連の作業を確認した。

日大工学部 除染へ実験

日大工学部とるさと創生支援センターなどは12

日、大玉村で、原発事故に伴う除染作業に活用するため開発中の「側溝汚泥回収洗浄システム」の実証実験を行った。実験結